



料金別納郵便

—卵殻と煌彩—

泉健太郎 石井和洋 二人展

令和3年2月23日(火)~3月1日(月) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日3月1日は午後5時まで）

泉健太郎 23日(火)、24日(水) 在廊予定

昭和47年 新潟に生まれる

平成18年 長野県立上松技術専門校木工科卒業
以降新潟にて制作を続ける

平成26年 国展工芸部 奨励賞

平成28年 ぎやらりい栗本(長岡)にて個展

平成29年 国展工芸部 新人賞

石井和洋 会期中、全日在廊予定

昭和52年 広島に生まれる

平成27年 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞

平成30年 「茶の湯の造形展」大賞/田部美術館

平成31年 「茶の湯の造形展」奨励賞/田部美術館

日本陶芸展 入選

令和2年 「茶の湯の造形展」奨励賞/田部美術館

茶の湯には欠かせない、抹茶を入れる器の茶器。今回は、一風ある茶器を作る二人をご紹介します。新潟で卵殻手などの漆作品を作る泉さんと、福山で煌彩と名付けた陶作品を作る石井さんです。

泉さんとのご縁は、敬愛する長岡のギャラリー、栗本さんから丁寧に魅力ある仕事をされる漆作家とご紹介を頂きました。卵殻手とは、細かく砕いた卵の殻を漆で貼り固める技法で、根気の要る作業を厭わずなさっています。そのモダンな佇まいは品格があり、そして堂々とした存在感もあります。

石井さんとはお目にかかった事がないのですが、かねてより注目していた陶芸家で、茶陶の公募展で入選と入賞を繰り返し、素晴らしいと思っていました。円をモチーフにしたその独特の意匠と、煌彩と名付けた眩い煌めきのある肌合いが特徴で、茶器としても魅力ある作品に仕上げられています。

コロナ禍により、私も茶の湯と向き合っていた日常から少し遠ざかってしまいました。茶味ある二人の茶器で、一服の茶を頂き、再び、茶の湯を楽しもうと思っています。本邦初の組み合わせとなる、素材も、居住地も異なる二人展。もちろん、茶器以外の新作も沢山発表しますので、どうぞご覧頂ければ幸いです。

店主 安田尚史

柿谷ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式 Instagram

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com
<https://www.kakiden.com/gallery/>



コロナ禍の影響で、会期と営業時間の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

